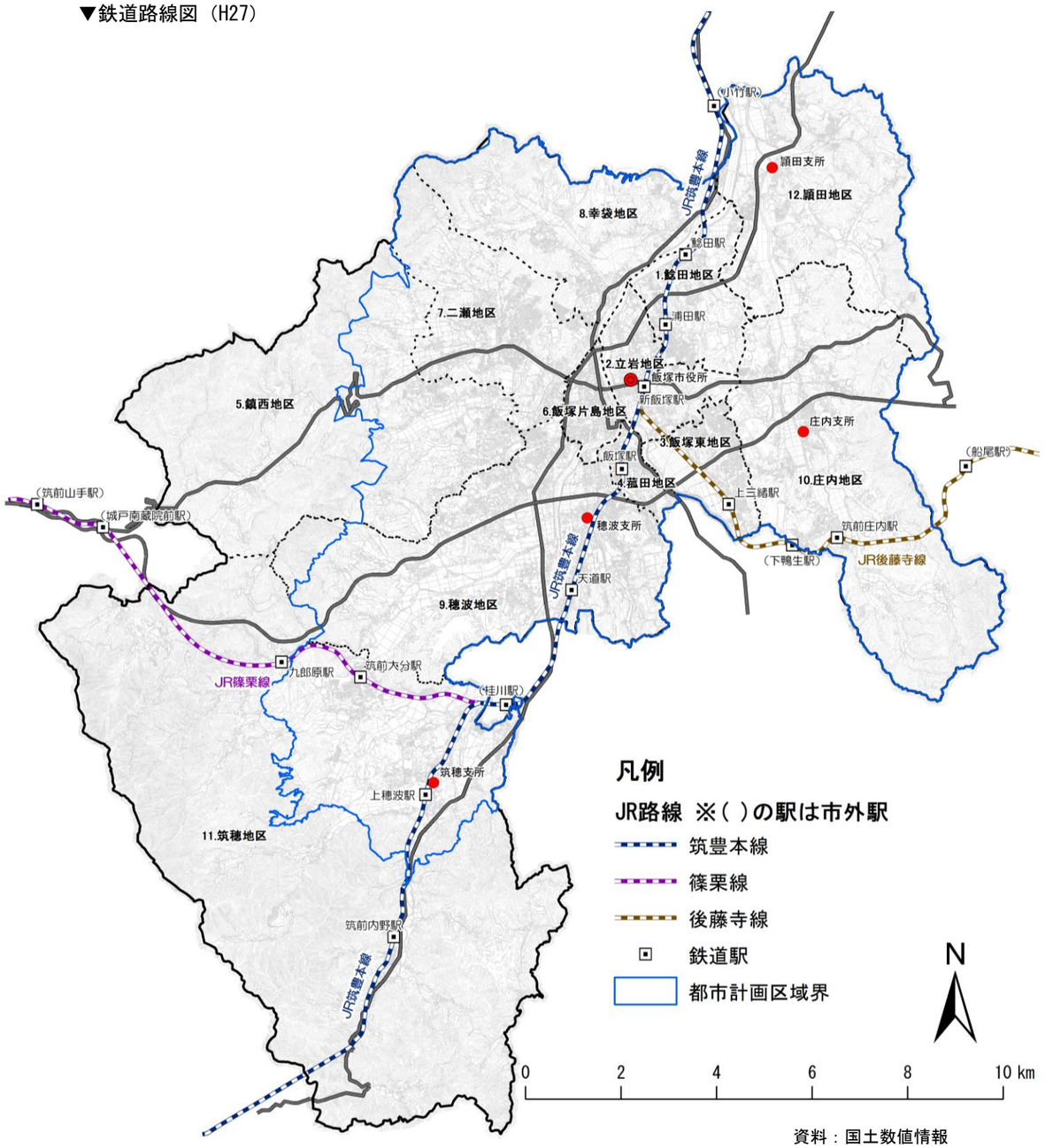
３．交通の動向と交通環境の将来見通し

（１）交通（鉄道・バス）の現状

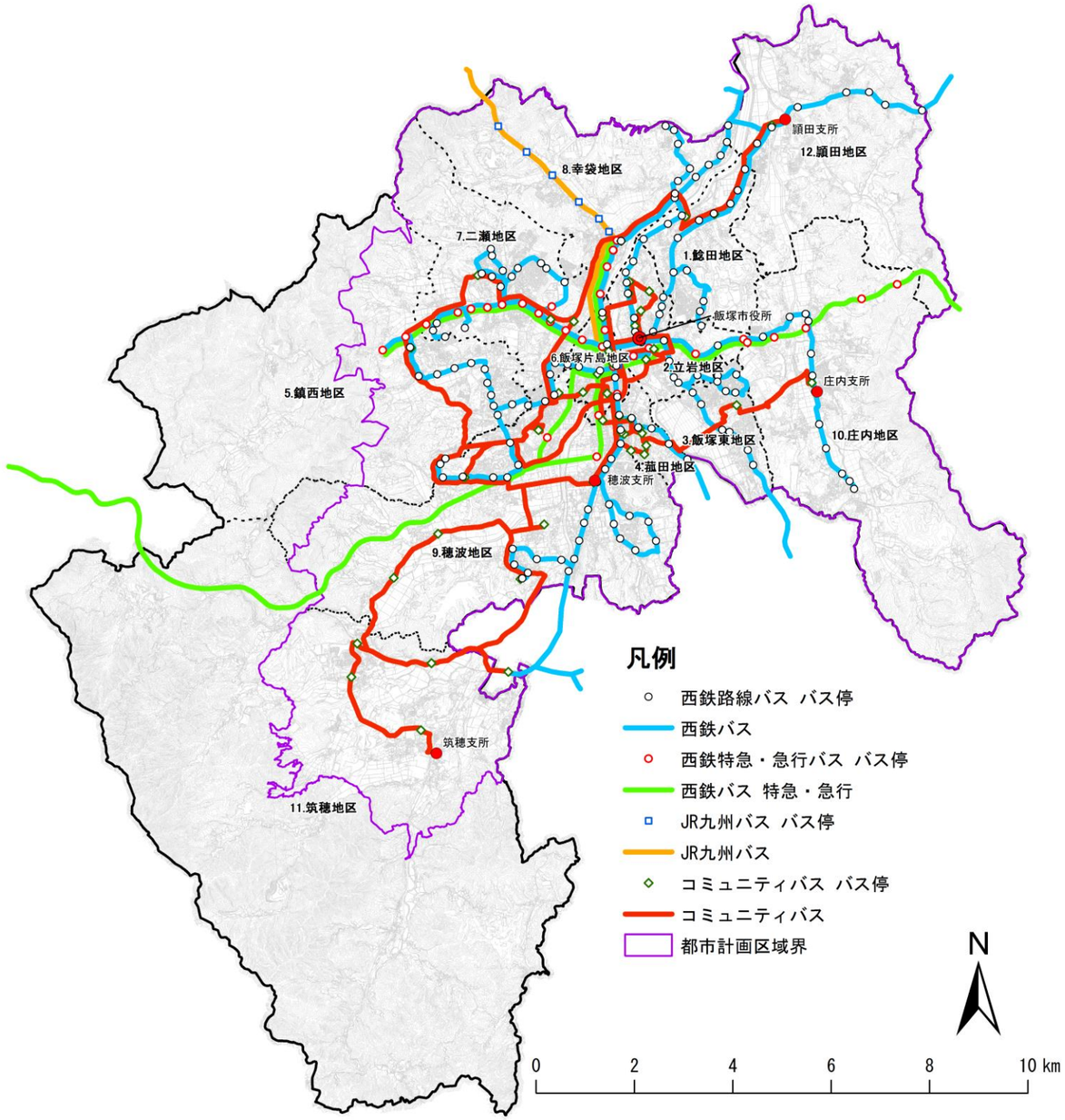
○本市の交通について、鉄道は、ＪＲ筑豊本線と篠栗線、後藤寺線の３路線で構成されており、バスは民営バス（西鉄バス、ＪＲ九州バス）、コミュニティバスが運行、平成 24 年度からは予約乗合タクシーが運行を開始している。（コミュニティバスは平成 21 年度から３年間の実証運行を経て、平成 24 年度から本格運行を開始）

▼鉄道路線図（H27）



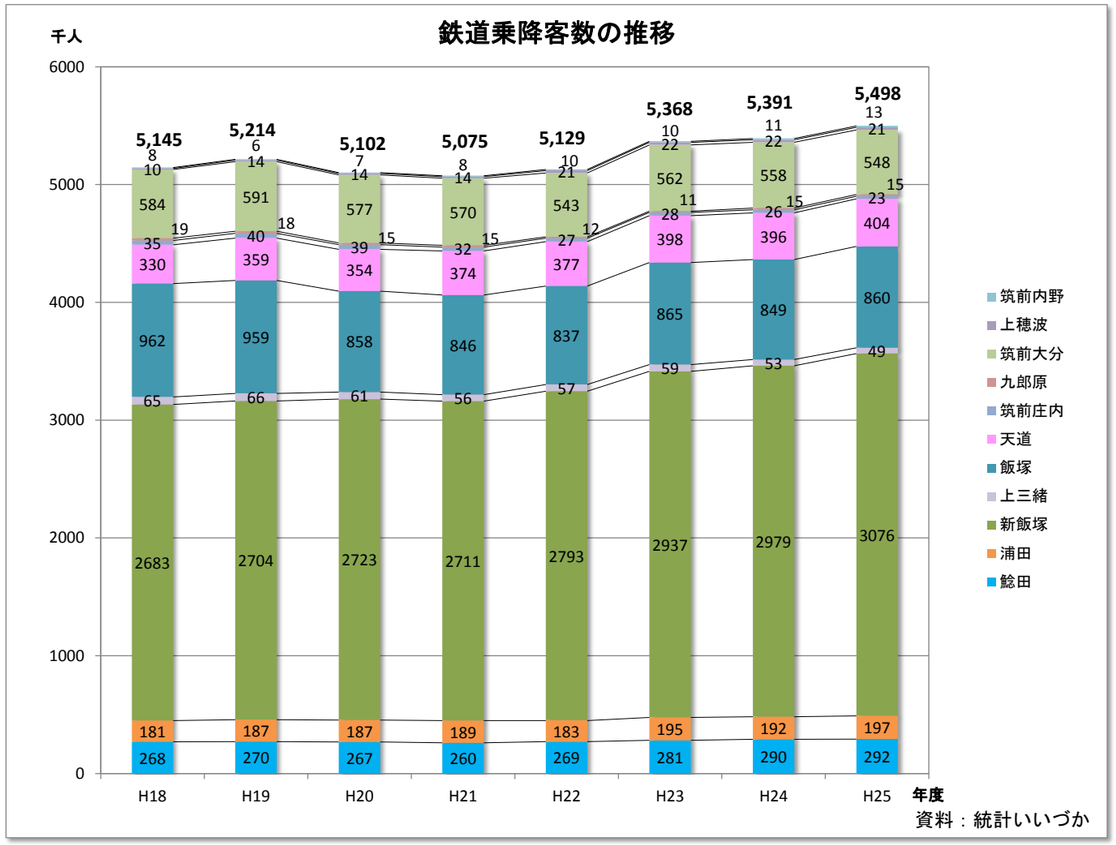
資料：国土数値情報

▼バス路線図（H27）

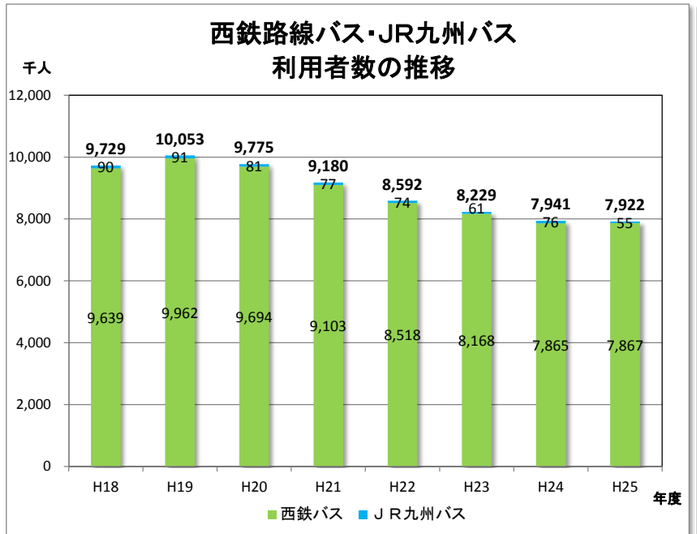


資料：国土数値情報、コミュニティバス・予約乗合タクシー利用ガイド

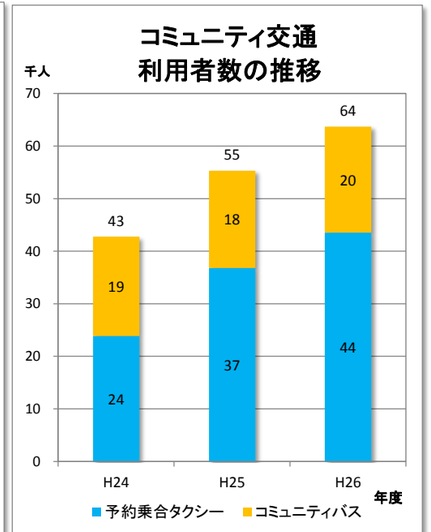
○鉄道乗降客数は、新飯塚駅での増加を主要因として増加傾向にあるが、平成 18 年と比較し増加した駅と減少した駅の差が見られる。
○バス利用者（民営バスの市内路線利用者）は、平成 19 年の 1,000 万人をピークに減少傾向にあり、減少幅は 2 割以上となっている。
○コミュニティ交通利用者は、本格運行開始時と比較し、増加しているものの民営バス利用者（平成 25 年）の 1%に満たない。



資料：統計いいづか



※西鉄バス…西鉄バス筑豊㈱の管轄のみ（特急・急行は含まず） 資料：統計いいづか



資料：商工観光課提供資料

▼予約乗合タクシーの運行範囲

予約乗合タクシー 運行範囲

●以下の地区内及び施設でご利用できます。
●立岩地区・飯塚地区・菰田地区では、予約乗合タクシーは運行していません。
●地区内を運行している車両は、こちらに記載している地区内及び施設以外には運行できません。

	【地区内】	【地区外で行ける施設】
頴田・鯰田地区	旧頴田町区域（勢田・口原・佐與・鹿毛馬）・鯰田・立岩(※1)	筑豊緑地（全敷地内）
穂波地区	旧穂波町区域（堀池・秋松・忠隈・南尾・平恒・楽市・天道・太郎丸・椋本・久保白・高田・舎利蔵・津原・安恒・椿・弁分・小正・若菜・枝国）	JR 筑前大分駅
筑穂地区	旧筑穂町区域（阿恵・内野・北古賀・桑曲・大分・内住・長尾・平塚・馬敷・筑穂元吉・山口・弥山）	済生会病院
庄内地区	旧庄内町区域（高倉・筒野・赤坂・入水・山倉・綱分・有安・多田・仁保・大門・庄内元吉・有井）	筑豊緑地（全敷地内）・トライアル上三緒店
二瀬地区	川津(※2)・横田・伊岐須・伊川・相田	せき損センター（全敷地内）・イオン穂波店（全敷地内）
幸袋地区	幸袋・中・庄司・津島・柳橋・目尾・吉北・川津(※3)	頴田病院・JR 鯰田駅・川食鯰田店・ハローデイ九工大前店
飯塚東地区	上三緒・下三緒・柏の森(※4)	越智外科胃腸科医院・ハローデイ柏の森店
鎮西地区	大日寺・花瀬・潤野・明星寺・八木山・建花寺・蓮台寺	市立病院・せき損センター（全敷地内）・ミスターマックス飯塚花瀬店

資料：コミュニティバス・予約乗合タクシー利用ガイド

▼予約乗合タクシー利用案内

利用者	どなたでもご利用いただけます 小学生以下の方が利用する際には、大人の同伴が必要となります。
運行日	平日のみ 土日祝日・8/13～8/15・年末年始（12/29～1/3）は運休します。
運行時間	8:00～17:00 地区ごとに、お昼の休憩時間が異なります。お昼の休憩時間は7・8ページをご参照ください。
運賃	300円（小学生以下無料） 回数券を利用した場合は、230円程度の負担で乗車できます。
回数券	100円券 13枚 つづりを 1,000円で販売 （コミュニティバス共通） 予約乗合タクシー及びコミュニティバス車内で販売しています。
乗降場所	各種施設近くや、ご自宅近くの“安全に乗り降りできる場所”を「乗降場所」として設定します バス停留所は設置していません。

資料：コミュニティバス・予約乗合タクシー利用ガイド

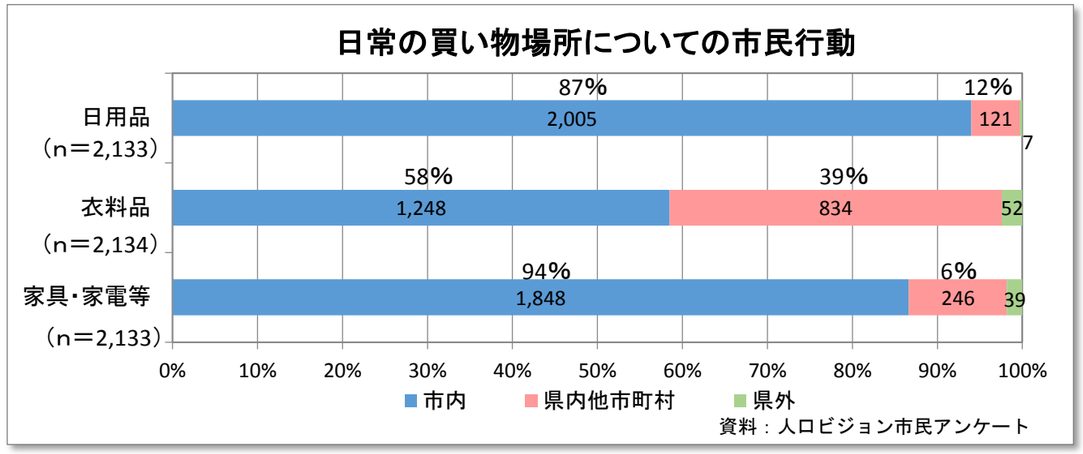
（２）市民交通行動の状況

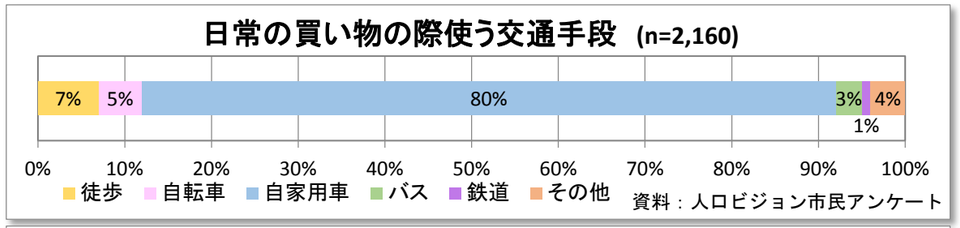
○人口ビジョン市民アンケート調査によると、日常の買い物について、日用品の９割弱、衣料品の６割弱、家具・家電等の９割以上の市民が市内で買い物を行っており、その際の交通手段として、８割の方が自家用車を利用している。

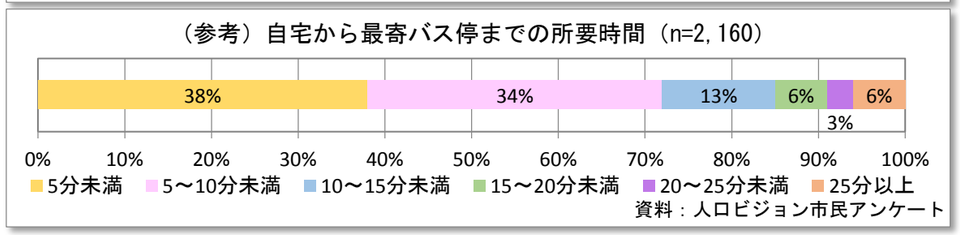
○車を自由に使えない人の住みやすさの満足度を見ると、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と感じる方が半数以上となっている。一方で、「住みにくい」、「どちらかといえば住みにくい」と感じる人は 17%にとどまっているものの、そのうちの半数以上の方が「交通の便が良くない」、「買い物が不便である」と感じている。

○全国的な統計データで高齢者の代表交通手段分担率をみると、地方都市圏においては 75 歳以上の半数近くは自動車以外の交通手段を用いている。

（参考）人口ビジョン市民アンケートの概要
- 調査名：飯塚市人口ビジョン及び総合戦略策定に関する「市民アンケート」調査
- 調査対象：18 歳以上の市内居住者 6,000 人
- 調査期間：平成 27 年 7 月
- 実施主体：飯塚市
- 回答率：37.2%







▼車を持たない人の割合

	A 運転免許証は持っているが車は持たない	B 運転免許証も車も持たない	合計	A+B/n
全体 (n=2,215)	222	236	458	20.7%
70 才以上 (n=240)	12	82	94	39.2%

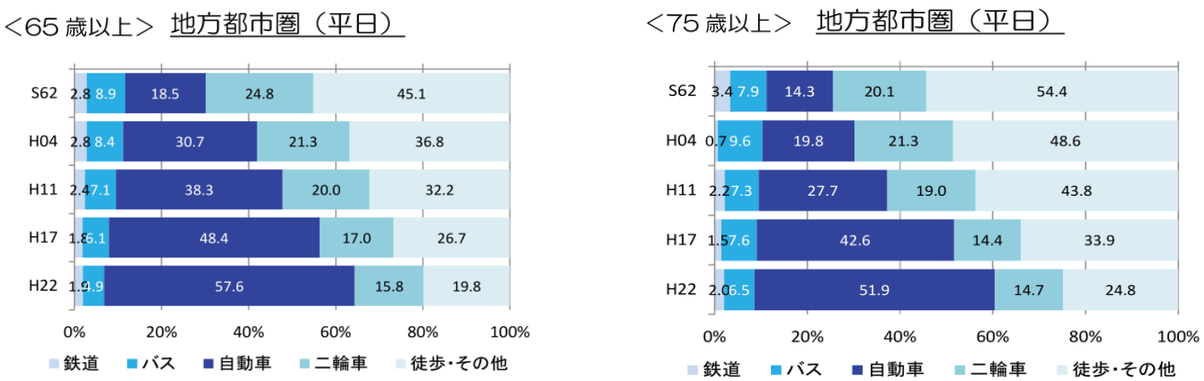
資料：人口ビジョン市民アンケート

▼車を持たない人の住みやすさの満足度

回答内容	回答数 (n=458)	回答率	住みやすい（住みにくい）理由の多数回答項目
住みやすい どちらかといえば住やすい	272	59.4%	・自然災害が少ない（37.8%）　・自然環境が良い（37.0%） ・土地への愛着がある（36.3%）　・買い物が便利である（36.3%） ・病院・福祉施設の充実（35.6%）　・交通の便が良い（30.7%）
どちらともいえない	99	21.6%	
どちらかといえば住みにくい 住みにくい	78	17.0%	・交通の便が良くない（56.4%）　・買い物が不便である（52.6%） ・働く場所が少ない（29.5%） 参考：自然環境が少ない（3.9%）、病院・福祉施設の不足（6.4%）
無回答・無効回答	9	2.0%	

資料：人口ビジョン市民アンケート

▼高齢者の代表交通手段分担率



資料：平成 22 年度全国都市交通特性調査（国土交通省）

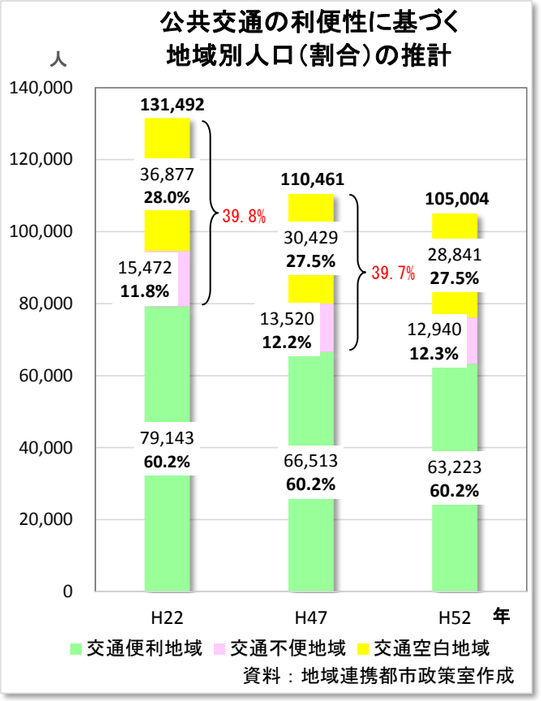
▼（参考）全国の運転免許保有者の状況（H22）　単位：千人

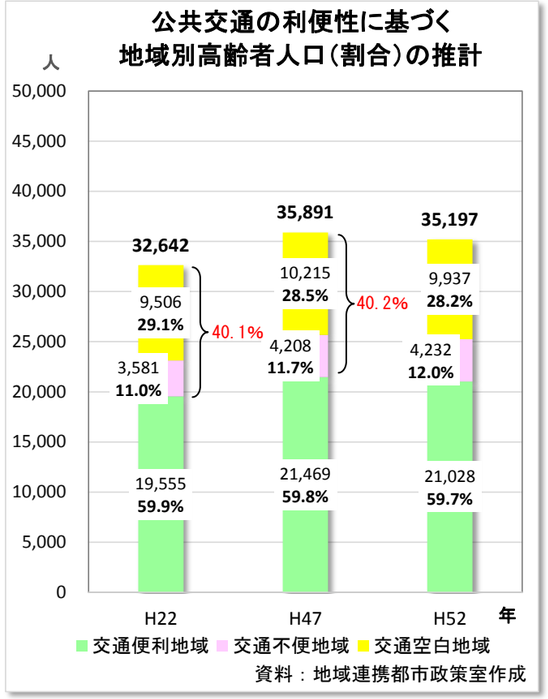
	運転免許保有者数	国勢調査人口	割合（%）
人　数	81,010	109,059	74.3
うち 65 才以上	12,754	29,246	43.6
割合（%）	15.7	26.8	—

資料：運転免許統計、国勢調査

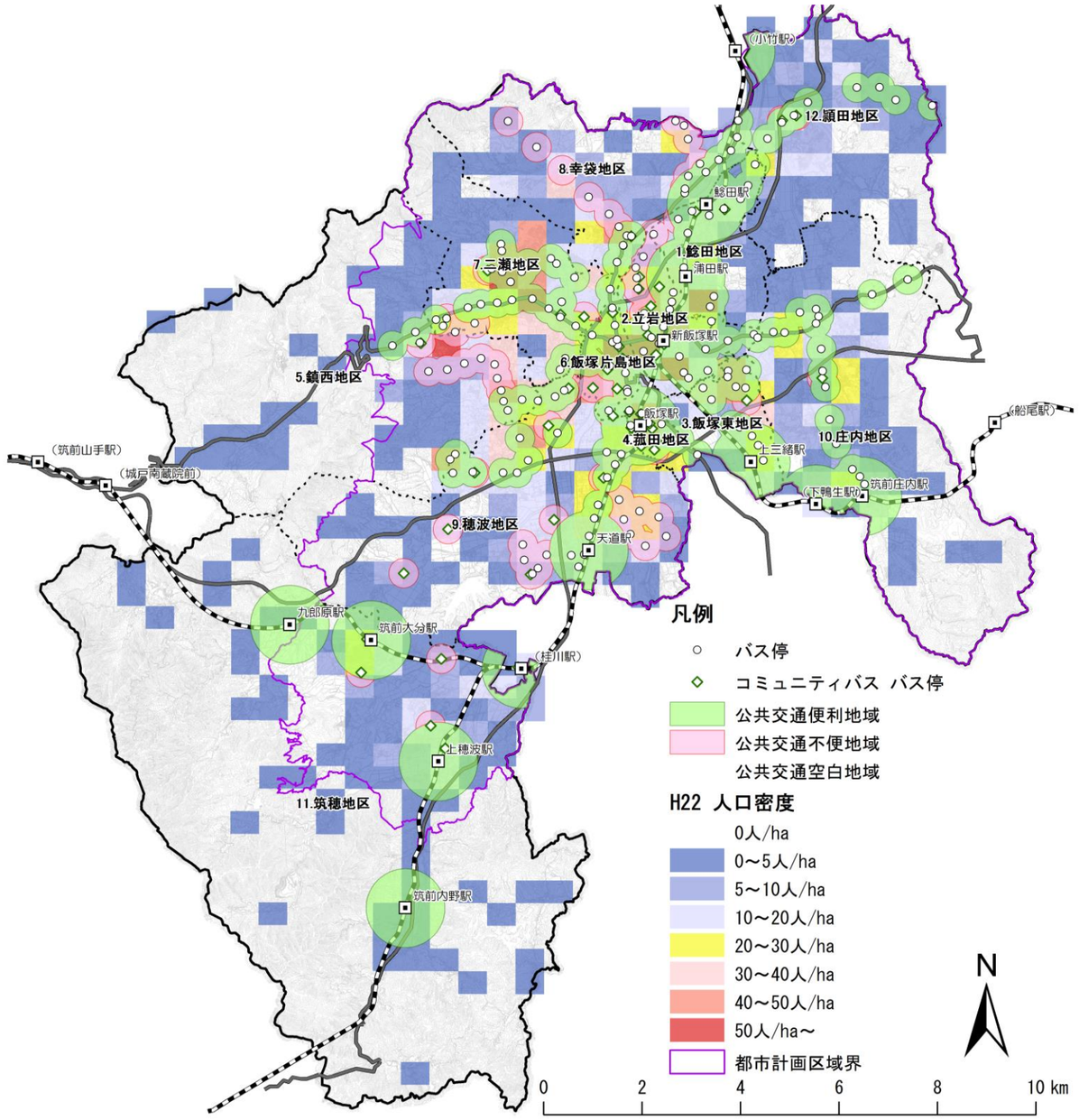
（３）交通環境の将来見通し

〇平成 22 年時点において、公共交通便利地域以外に居住する人の割合は全体の４割。人口が減少する平成 47 年においてもこの割合は変わらず、高齢者の４割が公共交通不便地域又は公共交通空白地域に居住することが見込まれる。
〇公共交通の利便性に基づく地域別人口密度の推移を見ると、不便地域や空白地域と同様に便利地域においても人口密度の低下が見込まれる。
〇公共交通便利地域は、鉄道と民営バス路線により形成されている。





▼公共交通の利便性に基づく地域とメッシュ別人口密度の重ね合わせ



資料：国勢調査、国土数値情報、バス時刻表をもとに加工

▼公共交通の利便性に基づく地域別人口密度の推移

単位：人/ha

分類	H22	H47	H52
公共交通便利地域	18.7	15.7	15.0
公共交通不便地域	17.3	15.1	14.5
公共交通空白地域	2.3	1.9	1.8

資料：国勢調査をもとに推計・加工

■公共交通の利便性に基づく地域（公共交通便利地域、不便地域、空白地域）の定義

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">バス</td></tr>
<tr><td colspan="2">バス停から300m圏内</td><td rowspan="2">バス停から
300m圏外</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>運行本数15回／日
（往復）以上</td><td>運行本数15回／日
（往復）未満</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鉄道</td><td>駅から
800m圏内</td><td colspan="3">公共交通便利地域</td></tr>
<tr><td>駅から
800m圏外</td><td colspan="2">公共交通
不便地域</td><td>公共交通
空白地域</td></tr>
</table>

資料：都市構造評価ハンドブックを参考に市作成

４．都市機能施設の立地状況と立地環境の将来見通し

（１）都市機能施設の立地状況

〇本市には様々な施設が立地しているが、このうち市民が生活する上で利用する施設（娯楽に関する施設を除く）＝生活サービス関連施設の総数は 2,307 件。
〇生活利便施設（日常の生活を行う上で必要な施設のうち、通所型（訪問型、入所型と区別）のもの）は、商業施設として生鮮三品取扱店が 80 件、コンビニエンスストアが 66 件、医療施設として一般病院が 12 件、一般診療所（内科、小児科）が 94 件、福祉施設として高齢者通所系福祉施設が 98 件、障がい者通所系福祉施設が 39 件、子育て施設が 52 件、教育施設として小学校が 23 件、中学校が 12 件立地している。また、鉄道駅は 11 駅、バス停留所は 244 箇所立地している。

▼生活サービス関連施設の立地件数（H27）

都市機能	生活サービス関連施設		市内立地件数
商業	最寄品店（日用品店）（うち大規模小売店舗（※１）	生鮮三品取扱店 スーパーマーケット	25 （12）
		生鮮三品取扱店 個店（※２）	55 （0）
		小計	80 （12）
		コンビニエンスストア	66 （0）
		ドラッグストア	15 （5）
		その他の最寄品店	41 （2）
	買回品店【家電量販店、ホームセンター、婦人服店等】		163 （21）
	飲食店（外食店）		661
医療	病院	一般病院（うち二次・三次救急医療機関）	12 （8）
		〃 （①うち内科、②うち小児科を有する病院）	（①11・②3）
		精神科病院	1
		結核療養所	0
	一般診療所（①うち内科、②うち小児科を有する診療所）（※３）		136 （①92・②37）
	歯科診療所		79
	その他（急患センター）		1
福祉（高齢者）	通所系福祉施設	通所介護（デイサービス）	90
		通所リハビリテーション（デイケア）	8
		小計	98
	訪問系福祉施設	訪問介護（ホームヘルプサービス）	81
		訪問看護・訪問リハビリテーション等	14
	小規模多機能型福祉施設	小規模多機能型居宅介護	5
	入所系福祉施設	短期入所生活介護（ショートステイ[特養・有料ホーム等]）	17
		短期入所療養介護（ショートステイ[老健・療養型]）	6
		認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	20
		特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）	7
		地域密着型特定施設入居者生活介護	4
		地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	2
		介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	14
		介護老人保健施設・介護療養型医療施設	7
福祉（障がい者）	通所系福祉施設	自立訓練	5
		就労移行支援（一般型）	6
		就労継続支援（A型）	2
		就労継続支援（B型）	14
		生活介護	18
		保育所等訪問支援	2
		児童発達支援	9
		放課後等デイサービス	8
		小計（※４）	39
	訪問系福祉施設	居宅介護	49
	入所系福祉施設	施設入所支援	8
		短期入所	10
		障がい児入所支援	1

都市機能	生活サービス関連施設		市内立地件数
子育て	保育所（うち①認可外保育所、②認定こども園）		36 （①5・②4）
	幼稚園（うち認定こども園）		13 （4）
	子育て支援センター		5
	病後児保育施設		2
	合計		52
教育	小学校（うち小中一貫校）		23 （1）
	中学校（うち小中一貫校、中高一貫校）		12 （各1）
	高等学校		4
	大学		3
防災防犯	避難所		85
	消防署、消防分署		7
	警察署、交番		10
地域経済関連（上記以外部分）	郵便局		27
	金融機関	店舗	31
		ＡＴＭのみ	29
	ガソリンスタンド		40
行政	本庁・支所		5
	地区公民館		12
	図書館・図書室		16
	文化施設（文化会館・歴史資料館・観光文化施設）		5
	スポーツ施設		34
	都市公園（開設）		53
交通	鉄道駅		11
	バス停留所等	民営バスターミナル・停留所	196
		コミュニティバス停留所	48
	小計		244
生活サービス関連施設　合計			2,307

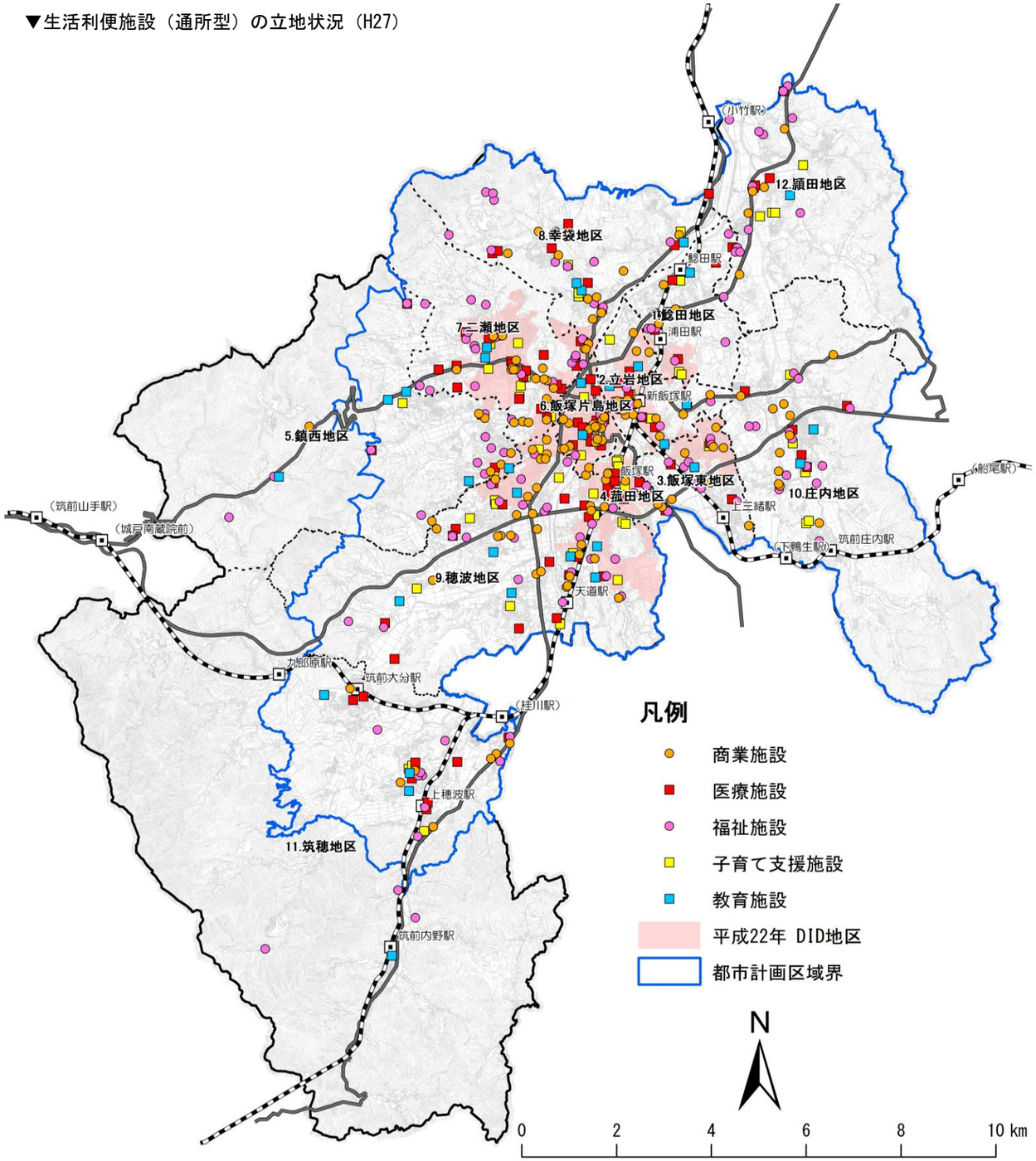
（医療機関は平成 26 年４月１日現在、その他の情報は平成 27 年９月１日現在の情報にて作成。）

※1）大規模小売店舗：大規模小売店舗立地法による建物内の店舗面積の合計が 1,000 ㎡を超える店舗。
※2）個店には、スーパーマーケット内での営業店舗を含む。
※3）内科のうち小児科を有する診療所は 35 件（小児科のうち内科を有しない診療所は２件）。よって、内科、小児科の施設数は計 94 件
診療所には、福祉施設等の医務室を含む。
※4）福祉施設の小計：複数のサービスを実施している施設があるため、サービス毎の合計と施設数小計が合わない場合がある。

資料：【商業】大型小売店要覧、日本スーパー名鑑、ｉタウンページ、経済センサス【医療】健康・スポーツ課提供資料、【福祉】飯塚市内介護保険指定事業所一覧、指定障害福祉サービス事業所一覧、【子育て・教育】子育て支援課提供資料、【防災防犯】防災安全課提供資料、【地域経済関連】ｉタウンページ、施設 HP、【行政】統計いいづか、都市計画課提供資料、【交通】国土数値情報、各バス会社 HP

○生活利便施設（通所型）は、ＤＩＤ地区内（鯰田地区、立岩地区、飯塚東地区、菰田地区、飯塚片島地区、二瀬地区、穂波地区のそれぞれ一部）に集積が見られる。
○施設区分ごとの徒歩圏人口カバー率をみると、生鮮三品取扱店以外は８５％を超えている。

▼生活利便施設（通所型）の立地状況（H27）



▼生活利便施設（通所型）の徒歩圏人口カバー率（H22）

	施設名	徒歩圏人口カバー率
商業施設	生鮮三品取扱店	77.3%
	コンビニエンスストア	87.3%
医療施設	一般病院（内科・小児科）、 一般診療所（内科・小児科）	86.2%
福祉施設	高齢者通所系福祉施設、 障がい者通所系福祉施設	92.5%
子育て施設	保育所、幼稚園、認定こども園、 子育て支援センター、病後児保育施設	86.5%
教育施設	小学校、中学校	99.9%

■徒歩圏人口カバー率の計算方法：各施設の徒歩圏内人口／市全体人口×100%

＊徒歩圏人口カバー率の圏域設定の根拠

・教育施設以外は、「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」をもとに徒歩圏を「施設を中心に８００mの範囲」に設定。

・教育施設は「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（文部科学省）」をもとに徒歩圏を小学校は「学校を中心に４ｋmの範囲」、中学校は「学校を中心に６ｋmの範囲」に設定

・８００mの徒歩所要時間は１０分＝８００m÷８０m／分（速度は不動産の表示に関する公正競争規約施行規則引用）

■徒歩圏人口密度の計算方法：各施設の徒歩圏内人口/圏域面積（人/ha）

▼都市機能施設の分類（*）

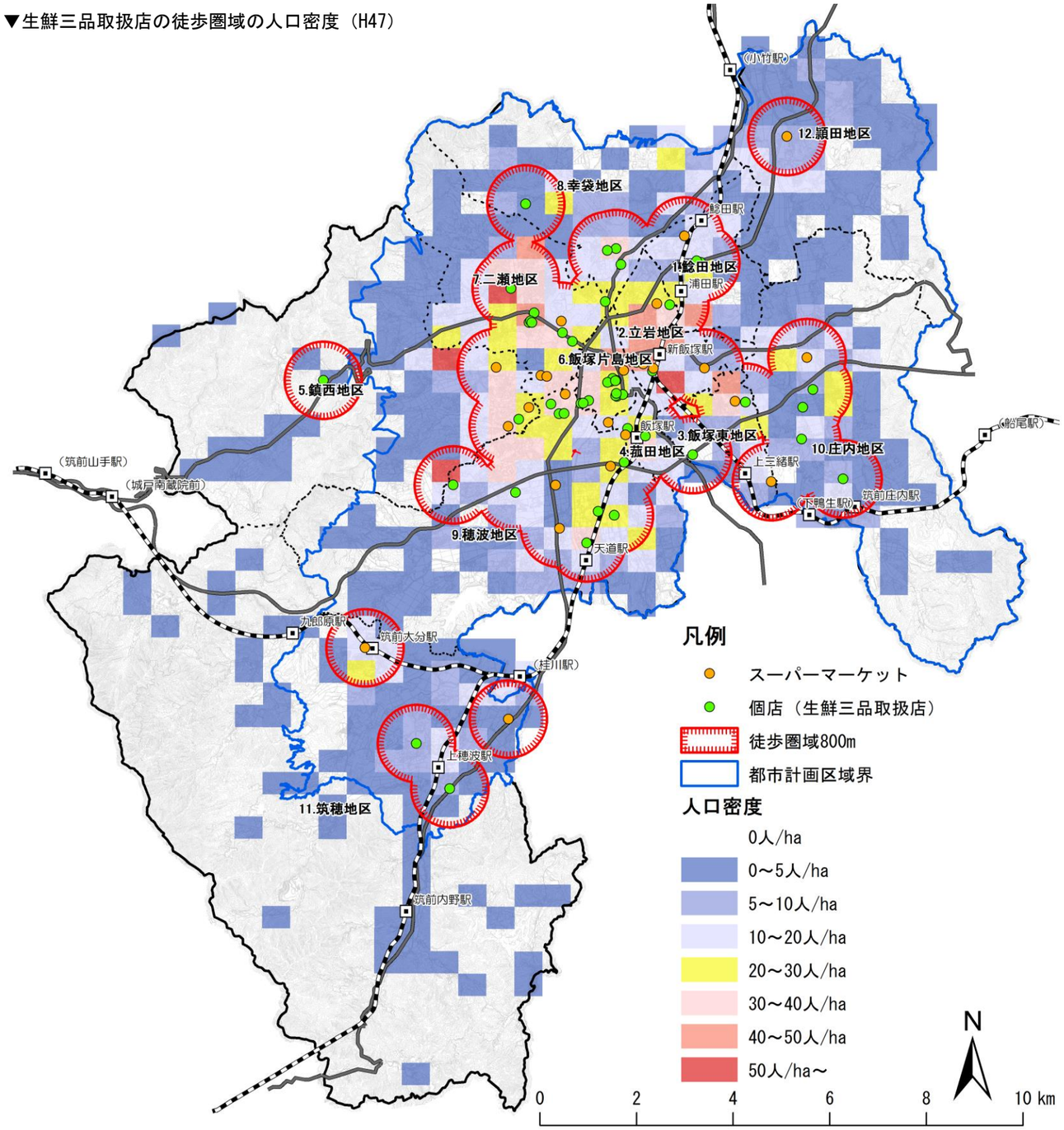
生活サービス関連施設：市民が生活する上で利用する施設（娯楽施設を除く）
└─ 生活利便施設（通所型）：日常の生活を行う上で必要な施設のうち通所型のもの
　　商業施設：生鮮三品取扱店、コンビニエンスストア
　　医療施設：一般病院（内科、小児科）、一般診療所（内科、小児科）
　　福祉施設：高齢者通所系、障がい者通所系
　　子育て支援施設：保育所、幼稚園、認定こども園、子育て支援センター、病後児保育施設
　　教育施設：小学校、中学校

(*)都市機能施設について明確な定義はなく、基礎調査においては生活利便施設（通所型）を都市機能施設と位置づけ分析（都市機能施設を生活利便施設（通所型）に限定するものではなく、基礎調査上の分類として使用）
（参照）都市再生特別措置法第 81 条第 1 項「都市機能誘導施設：医療施設、福祉施設、商業施設その他の都市の居住者の共同の福祉又は利便のため必要な施設であって、都市機能の増進に著しく寄与するものをいう。」

（２）生活利便施設の徒歩圏人口密度の将来見通し

〇生鮮三品取扱店の総数は 80 件で、スーパーマーケット以外に生鮮三品を取り扱う個店も多く立地している。
〇徒歩圏人口カバー率の高い地域が存在しており、生鮮三品取扱店について、平成 27 年の施設が平成 47 年も立地している場合、徒歩による生活利便性の高い地域が複数存在することが見込まれる。
〇生鮮三品取扱店の徒歩圏人口密度について、飯塚片島地区で 30 人／ｈａを超えているものの、全体的に人口密度は低く、将来的にもほぼ全ての地区で徒歩圏人口密度の低下が見込まれる。

▼生鮮三品取扱店の徒歩圏域の人口密度（H47）



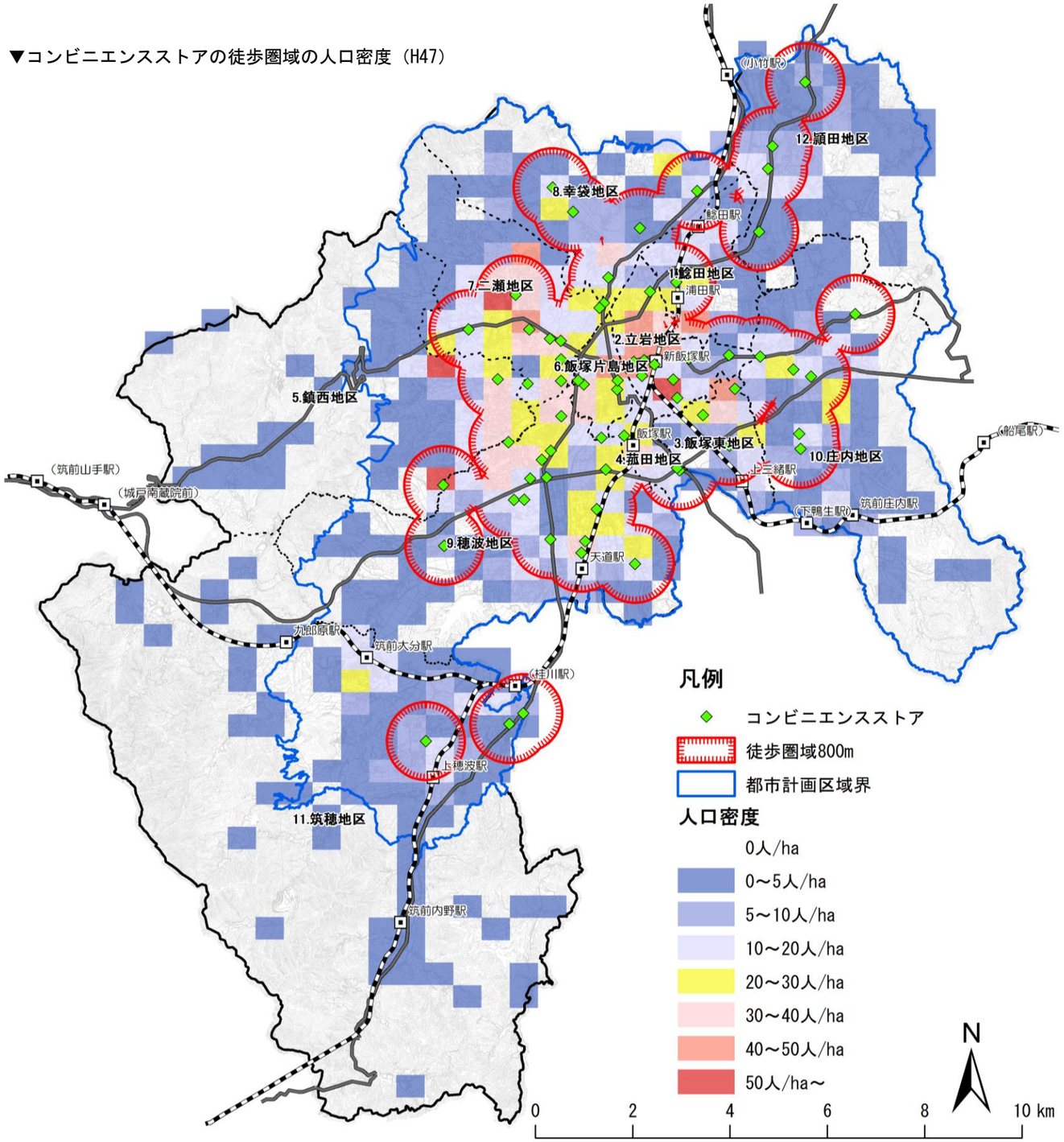
▼地区別徒歩圏人口密度の推移・立地件数・徒歩圏人口カバー率

地区名	徒歩圏人口密度（人／ha）		立地件数（H27）	徒歩圏人口カバー率（H47）
	H22	H47		
鯰田地区	18.1	14.3	4	79.9%
立岩地区	25.5	25.6	7	99.6%
飯塚東地区	21.2	14.8	7	90.4%
菰田地区	26.3	19.3	4	100.0%
鎮西地区	23.0	22.2	5	64.2%
飯塚片島地区	33.2	27.1	14	100.0%
二瀬地区	29.1	25.4	12	88.8%
幸袋地区	13.7	11.2	4	54.1%
穂波地区	19.4	16.4	13	83.9%
庄内地区	9.7	8.1	5	67.6%
筑穂地区	9.5	7.5	4	62.0%
頴田地区	8.9	6.9	1	29.6%
計	18.6	15.8	80	78.0%

資料：【生鮮三品取扱店】大型小売店要覧、日本スーパー名鑑、ｉタウンページ
【人口密度】国勢調査をもとに加工・推計

○コンビニエンスストアの総数は 66 件で、主に国道沿いに分散しているが、施設によっては近接して立地している場所もある。
○平成 47 年時点において徒歩圏人口カバー率の高い地区が複数存在することが見込まれるものの徒歩圏人口密度は全体的に低く、将来的にも低下が見込まれる。

▼コンビニエンスストアの徒歩圏域の人口密度（H47）



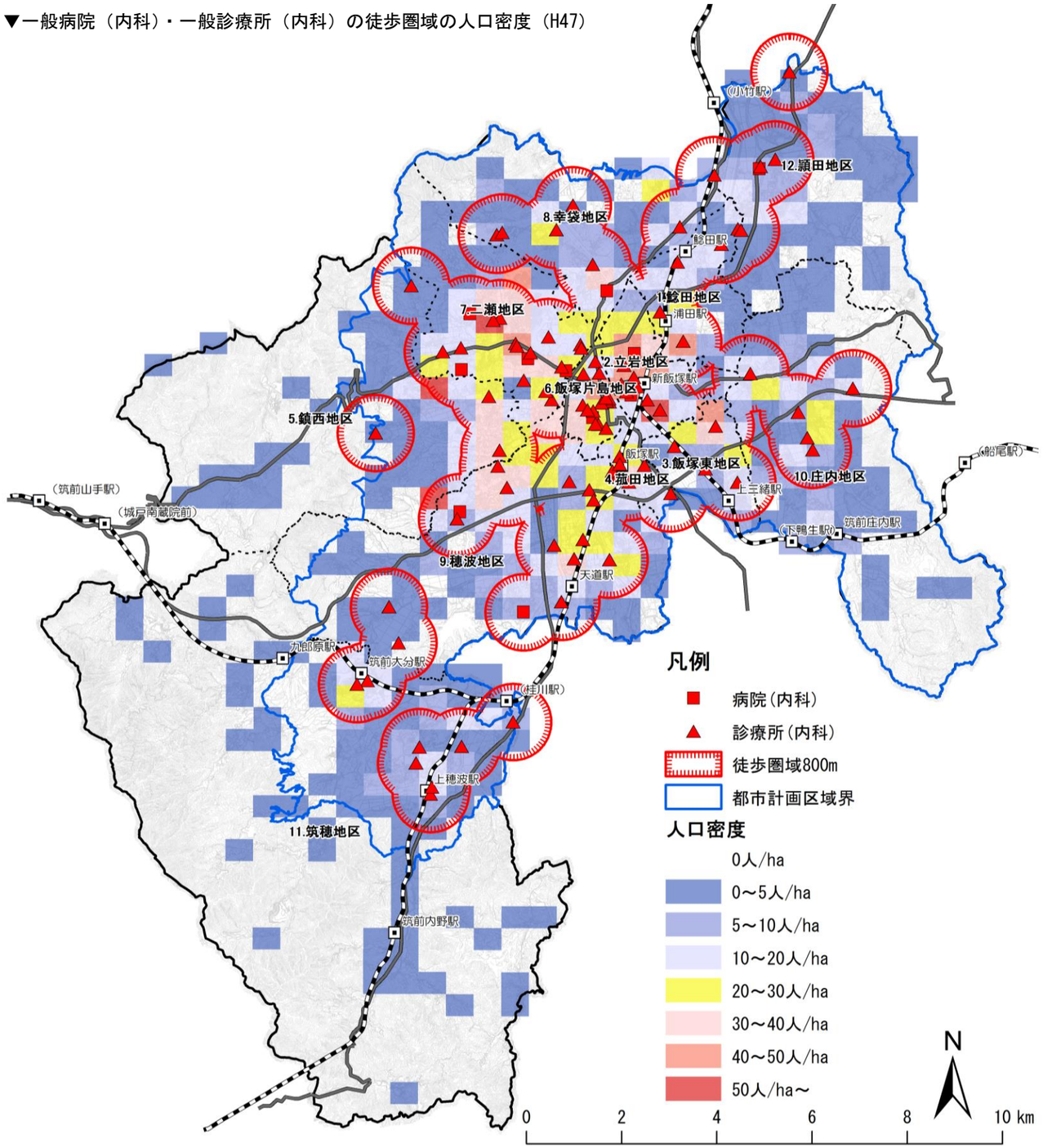
▼地区別徒歩圏人口密度の推移・立地件数・徒歩圏人口カバー率

地区名	徒歩圏人口密度（人／ha）		立地件数（H27）	徒歩圏人口カバー率（H47）
	H22	H47		
鯰田地区	13.1	10.2	1	90.4%
立岩地区	24.7	24.8	9	100.0%
飯塚東地区	23.0	16.1	3	100.0%
菰田地区	26.3	19.3	3	100.0%
鎮西地区	22.6	21.9	2	68.6%
飯塚片島地区	33.2	27.1	5	100.0%
二瀬地区	29.4	25.5	10	97.0%
幸袋地区	12.0	10.1	5	84.7%
穂波地区	17.1	14.5	15	91.4%
庄内地区	8.7	7.3	6	80.6%
筑穂地区	11.4	8.5	3	71.1%
頴田地区	8.2	6.5	4	66.9%
計	17.6	14.9	66	87.9%

資料：【コンビニエンスストア】i タウンページ、店舗 HP
【人口密度】国勢調査をもとに加工・推計

○一般病院（内科）、一般診療所（内科）の総数は 103 件で、二瀬地区、穂波地区、飯塚片島地区で 10 件以上の立地が見られる。
○平成 47 年時点において徒歩圏人口カバー率の高い地区が複数存在することが見込まれるものの徒歩圏人口密度は全体的に低く、将来的にも低下が見込まれる。

▼一般病院（内科）・一般診療所（内科）の徒歩圏域の人口密度（H47）



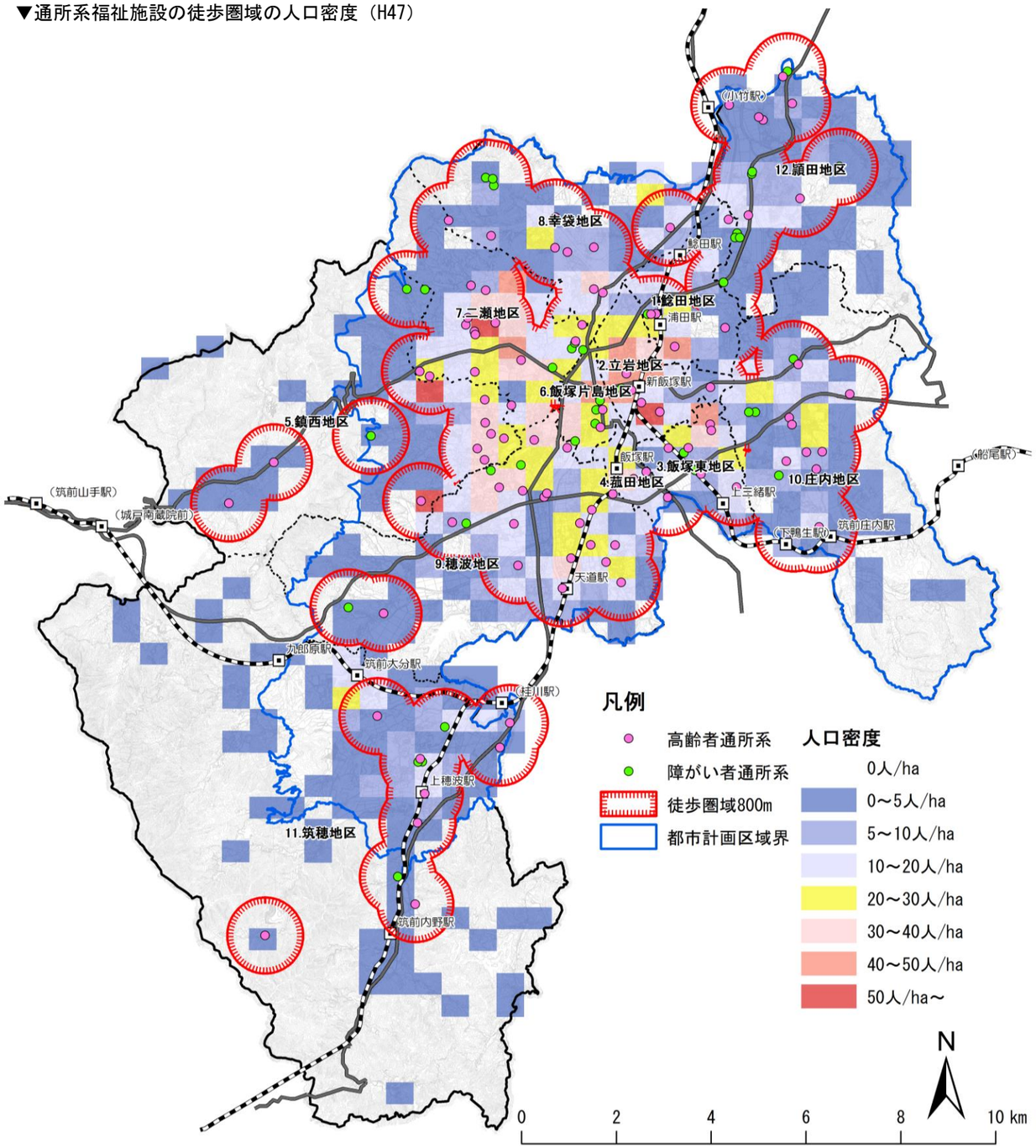
▼地区別徒歩圏人口密度の推移・立地件数・徒歩圏人口カバー率

地区名	徒歩圏人口密度（人／ha）		立地件数（H27）	徒歩圏人口カバー率（H47）
	H22	H47		
鯰田地区	13.9	11.0	5	97.1%
立岩地区	25.6	25.7	9	99.1%
飯塚東地区	22.2	15.4	4	99.3%
菰田地区	26.3	19.3	8	100.0%
鎮西地区	14.8	14.2	4	81.7%
飯塚片島地区	33.2	27.1	14	100.0%
二瀬地区	22.4	19.4	18	92.4%
幸袋地区	11.1	9.1	8	83.2%
穂波地区	15.1	12.6	15	88.5%
庄内地区	9.1	7.7	5	64.8%
筑穂地区	8.9	6.8	8	75.4%
頴田地区	6.8	5.2	5	52.8%
計	15.2	12.8	103	86.6%

資料：【病院・診療所】健康・スポーツ課提供資料
【人口密度】国勢調査をもとに加工・推計

○高齢者通所系福祉施設及び障がい者通所系福祉施設の総数は 137 件で、半数以上の地区で立地件数 10 件を超えており、他の生活利便施設に比べて比較的分散した立地であることが見られる。
○平成 47 年時点において徒歩圏人口カバー率の高い地区が複数存在することが見込まれるものの徒歩圏人口密度は他の生活利便施設と比較し最も低く、平成 47 年も低い割合で推移することが見込まれる。

▼通所系福祉施設の徒歩圏域の人口密度（H47）



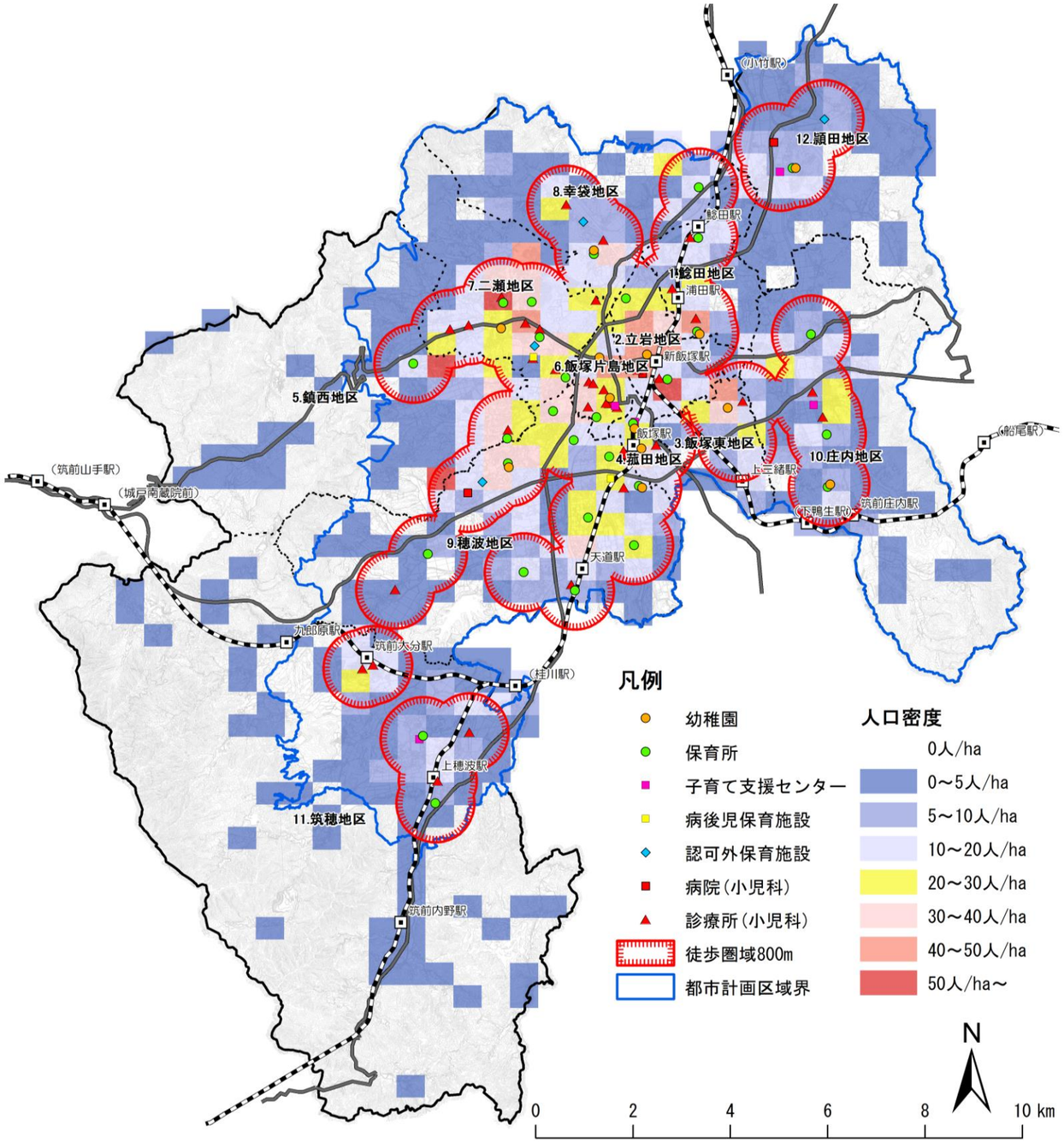
▼地区別徒歩圏人口密度の推移・立地件数・徒歩圏人口カバー率

地区名	徒歩圏人口密度（人／ha）		立地件数（H27）	徒歩圏人口カバー率（H47）
	H22	H47		
鯰田地区	12.5	9.8	6	89.8%
立岩地区	24.7	24.8	7	100.0%
飯塚東地区	22.2	15.4	8	99.7%
菰田地区	26.3	19.3	3	100.0%
鎮西地区	9.0	8.5	13	93.9%
飯塚片島地区	33.2	27.1	6	100.0%
二瀬地区	20.0	17.5	16	97.4%
幸袋地区	9.0	7.4	13	87.9%
穂波地区	14.6	12.3	23	95.1%
庄内地区	8.3	6.9	15	94.0%
筑穂地区	5.2	4.0	12	64.2%
頴田地区	5.4	4.2	15	86.6%
計	12.2	10.3	137	92.9%

資料：【通所系福祉施設】飯塚市内介護保険指定事業所一覧、指定障害福祉サービス事業所一覧
【人口密度】国勢調査をもとに加工・推計

○子育て施設、一般病院（小児科）、一般診療所（小児科）の総数は 92 件で、穂波地区、二瀬地区、飯塚片島地区では 10 件以上の立地が見られる。
○平成 47 年時点において徒歩圏人口カバー率の高い地区が複数存在することが見込まれるものの、徒歩圏人口密度は立岩地区を除く全ての地区で低下が見込まれる。

▼子育て施設・一般病院（小児科）・一般診療所（小児科）の徒歩圏域の人口密度（H47）



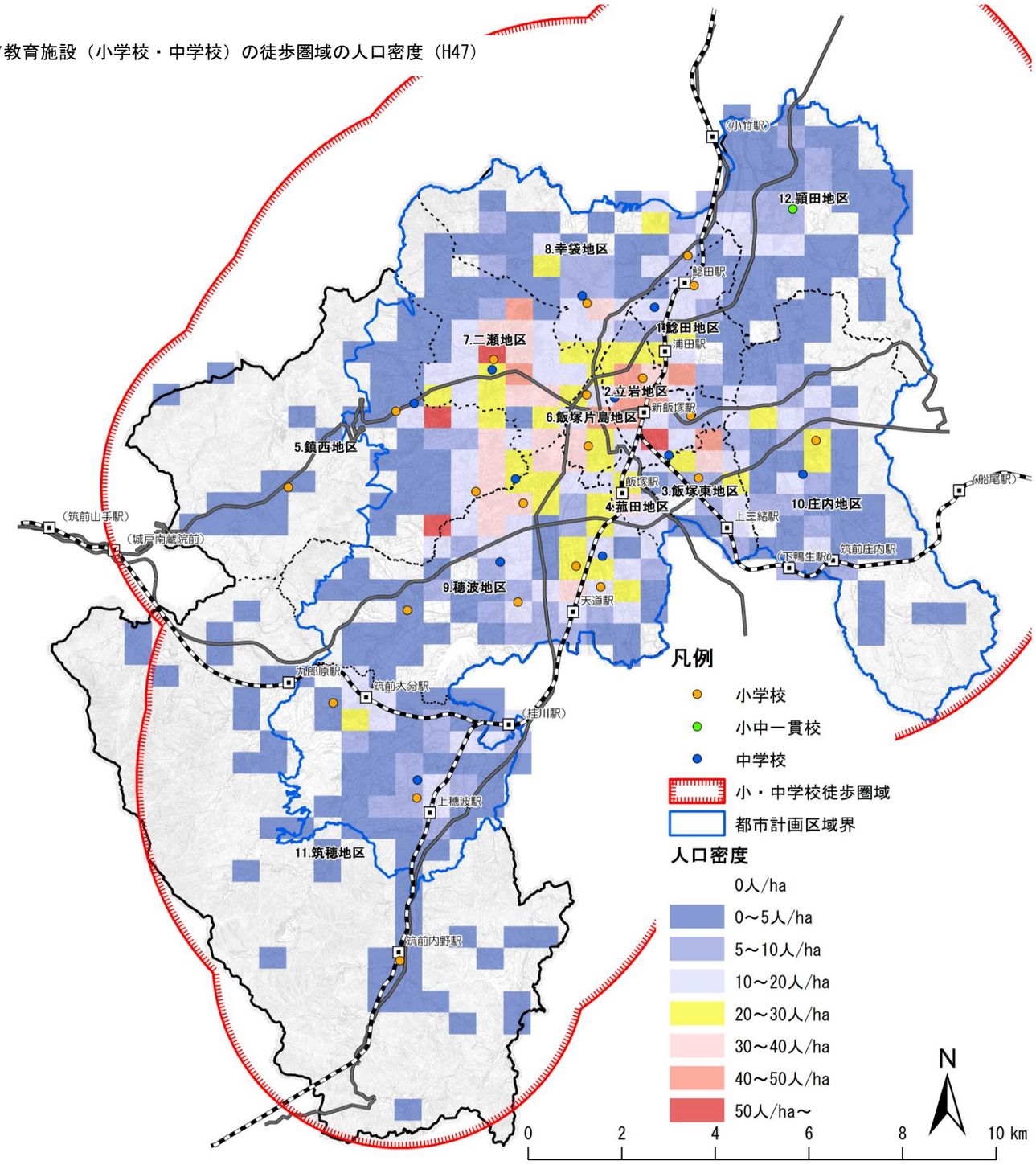
▼地区別徒歩圏人口密度の推移・立地件数・徒歩圏人口カバー率

地区名	徒歩圏人口密度（人／ha）		立地件数（H27）	徒歩圏人口カバー率（H47）
	H22	H47		
鯰田地区	15.2	12.1	5	93.8%
立岩地区	25.5	25.6	7	99.8%
飯塚東地区	24.3	16.9	3	90.5%
菰田地区	26.3	19.3	8	99.5%
鎮西地区	22.5	21.6	3	78.1%
飯塚片島地区	33.2	27.1	11	100.0%
二瀬地区	25.7	22.2	15	91.4%
幸袋地区	14.0	11.8	5	81.9%
穂波地区	14.7	12.3	18	93.7%
庄内地区	9.0	7.4	6	66.8%
筑穂地区	9.2	7.1	7	67.8%
頴田地区	8.0	6.3	4	64.9%
計	16.5	13.9	92	86.5%

資料：【子育て施設】子育て支援課提供資料
【人口密度】国勢調査をもとに加工・推計

○教育施設（小学校、中学校）の総数は 34 件で、頴田地区では小中一貫校が立地している。
○徒歩圏人口密度は立岩地区を除く全ての地区で低密度化が進行するものの、徒歩圏人口カバー率は全ての地区で高いことが見込まれる。

▼教育施設（小学校・中学校）の徒歩圏域の人口密度（H47）

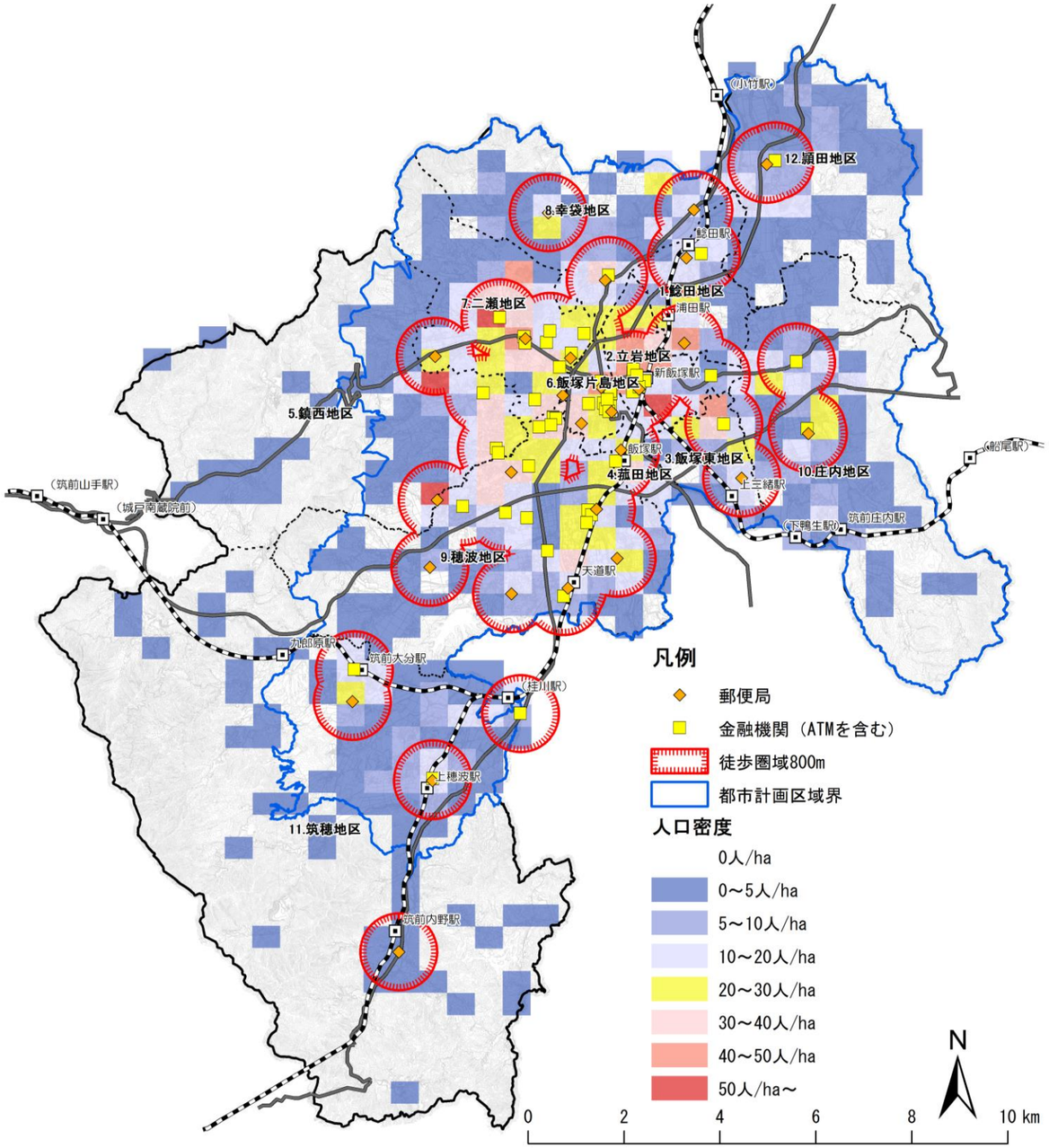


▼地区別徒歩圏人口密度の推移・立地件数・徒歩圏人口カバー率

地区名	徒歩圏人口密度（人／ha）		立地件数（H27）	徒歩圏人口カバー率（H47）
	H22	H47		
鯰田地区	15.5	12.3	1	100.0%
立岩地区	24.8	24.8	5	100.0%
飯塚東地区	21.3	14.8	1	100.0%
菰田地区	26.3	19.3	1	100.0%
鎮西地区	11.6	11.0	5	100.0%
飯塚片島地区	34.2	28.0	2	100.0%
二瀬地区	20.9	18.3	2	100.0%
幸袋地区	10.1	8.3	3	100.0%
穂波地区	15.8	13.3	7	100.0%
庄内地区	8.1	6.7	2	100.0%
筑穂地区	5.7	4.3	4	99.3%
頴田地区	5.5	4.4	1	100.0%
計	13.6	11.5	34	99.9%

資料：【教育施設】教育総務課提供資料
【人口密度】国勢調査をもとに加工・推計

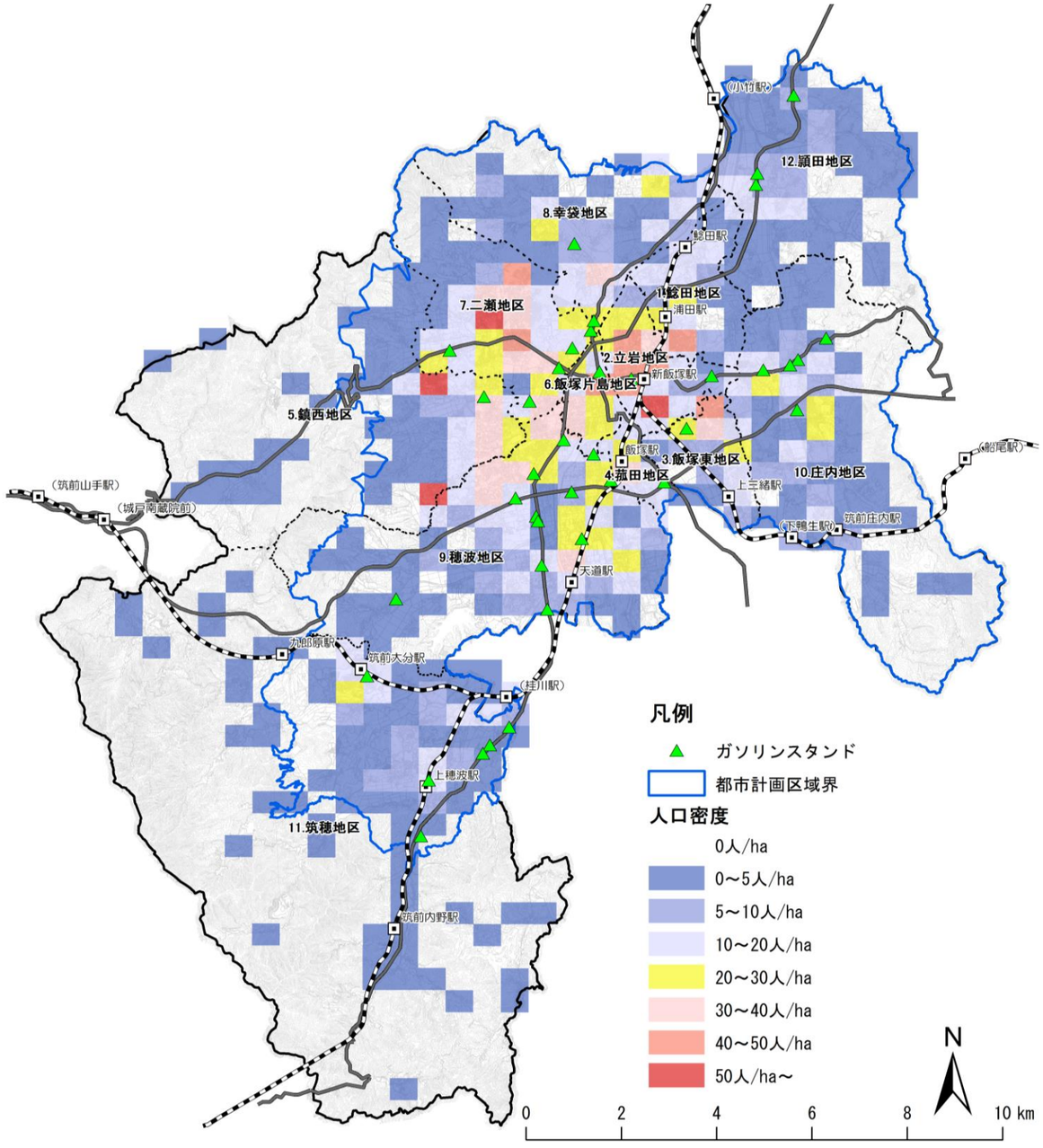
▼（参考）郵便局・金融機関（ＡＴＭを含む）の立地状況



資料：【郵便局・金融機関】各施設 HP

【人口密度】国勢調査をもとに加工・推計

▼（参考）ガソリンスタンドの立地状況



資料：【ガソリンスタンド】国土数値情報、ｉタウンページ

【人口密度】国勢調査をもとに加工・推計

（３）生活利便施設の交通利便性の状況

○生活利便施設（通所型）は、主に公共交通便利地域に立地しており、特に生鮮三品取扱店の立地割合が高い。
○通所系福祉施設の公共交通便利地域での立地割合は他の施設に比べ低く、相対的に公共交通空白地域における同施設の立地割合が高い。

▼公共交通の利便性に基づく地域別施設立地件数

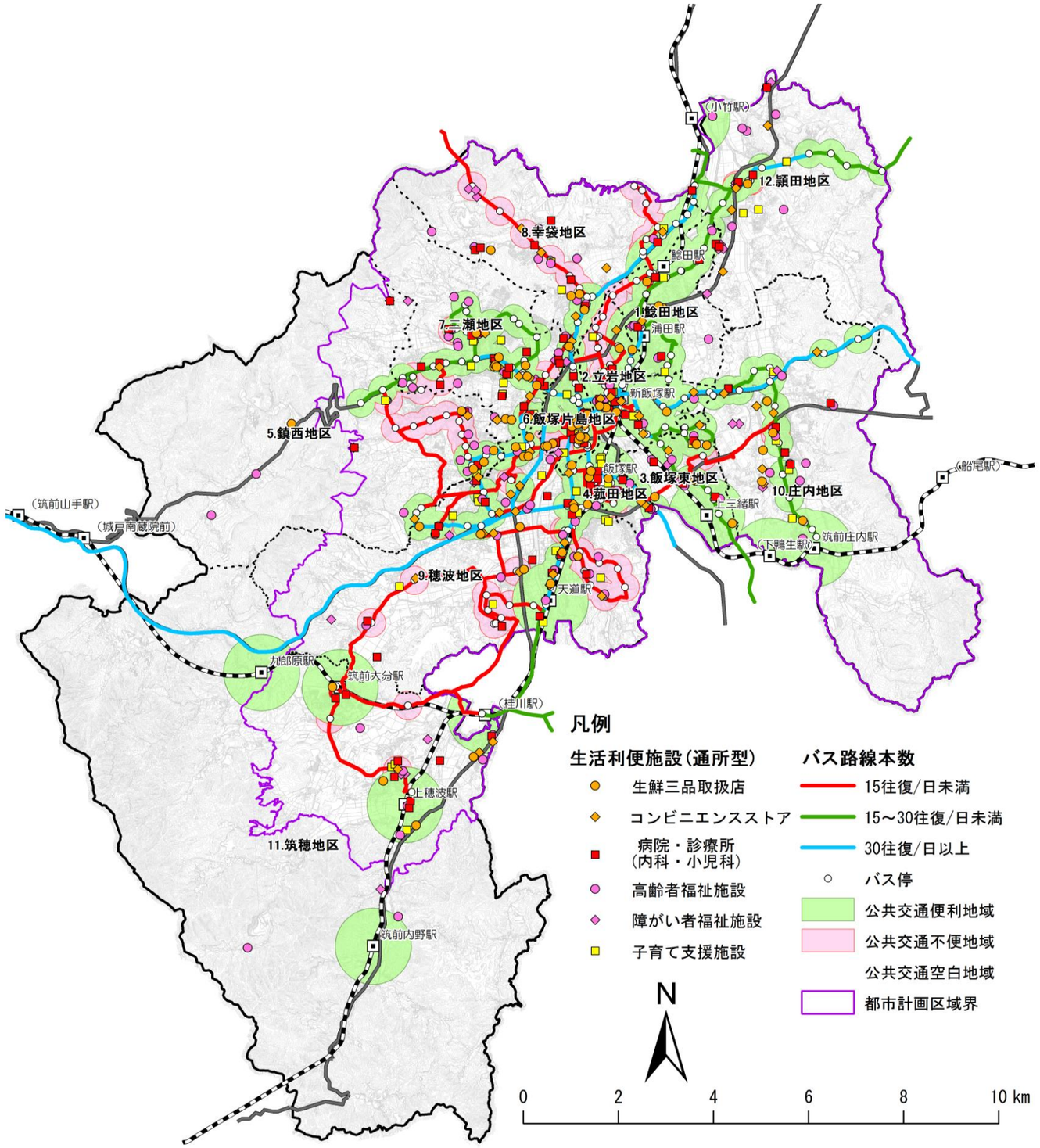
施設立地数（割合）	公共交通便利地域	公共交通不便地域	公共交通空白地域	計
生鮮三品取扱店	66（82.4%）	7（8.8%）	7（8.8%）	80
コンビニエンスストア	48（72.7%）	6（9.1%）	12（18.1%）	66
一般病院（内科）・診療所（内科））	79（76.7%）	7（6.8%）	17（16.5%）	103
通所系福祉施設	82（59.8%）	12（8.8%）	43（31.4%）	137
高齢者通所系福祉施設	61（62.2%）	8（8.2%）	29（29.6%）	98
障がい者通所系福祉施設	21（53.8%）	4（10.3%）	14（35.9%）	39
子育て施設・一般病院（小児科）・一般診療所（小児科）	68（73.9%）	8（8.7%）	16（17.4%）	92

■公共交通の利便性に基づく地域（公共交通便利地域、不便地域、空白地域）の定義

		バス		
		バス停から300m圏内		バス停から300m圏外
		運行本数15回／日（往復）以上	運行本数15回／日（往復）未満	
鉄道	駅から800m圏内	公共交通便利地域		
鉄道	駅から800m圏外		公共交通不便地域	公共交通空白地域

資料：都市構造評価ハンドブックを参考に市作成

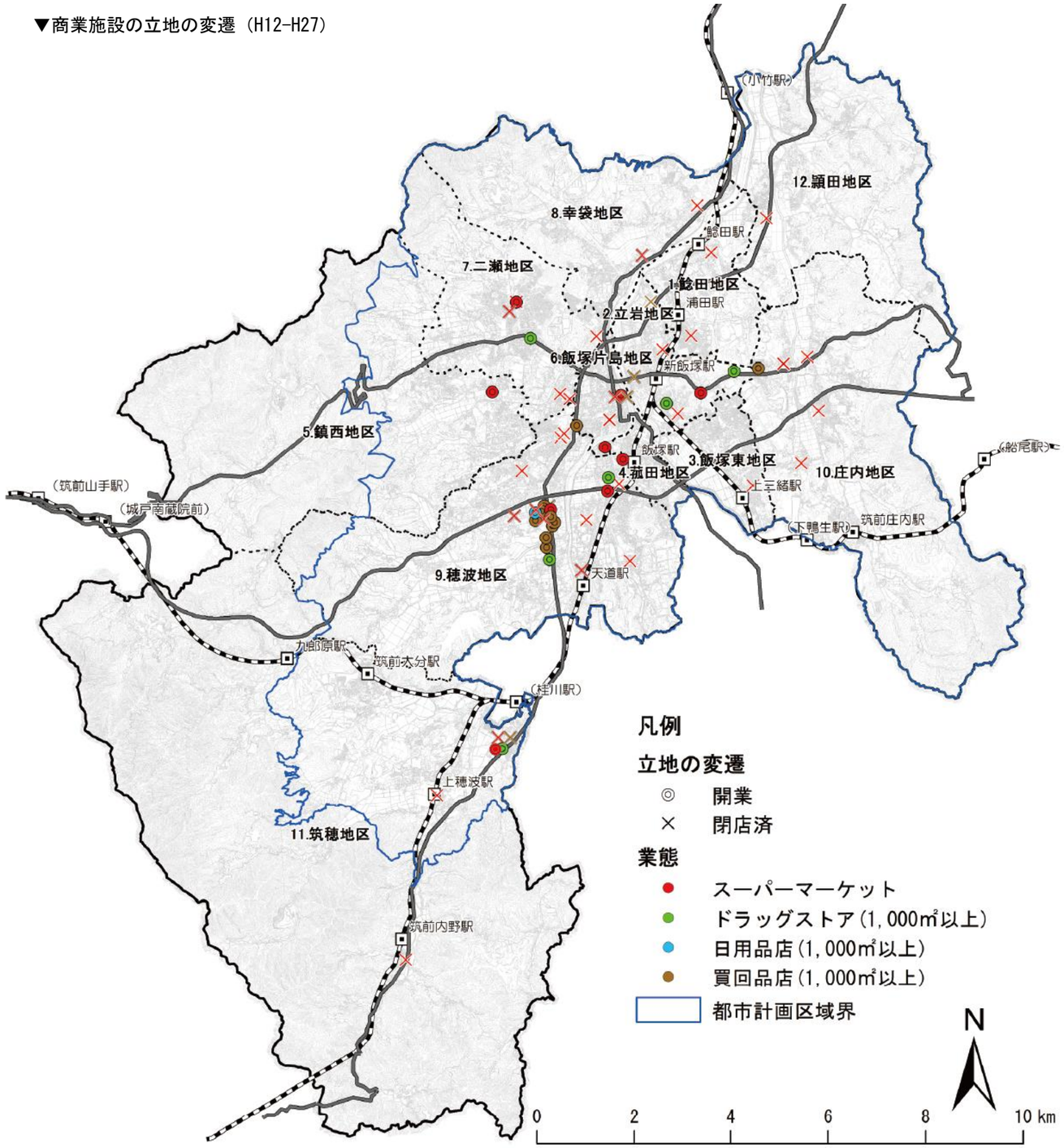
▼公共交通の利便性に基づく地域別施設立地状況



4）生活利便施設の立地の変遷

○過去 15 年間における商業施設の立地の変遷を見ると、各地区でのスーパーマーケットの閉店が際立っている。また、国道沿いにおいて規模の大きなドラッグストアや買回品店の開業が見られる。
○施設数の変遷において、スーパーマーケットの開業数は９件、閉店数は 32 件と閉店数が開業数を大きく上回っている。

▼商業施設の立地の変遷（H12-H27）



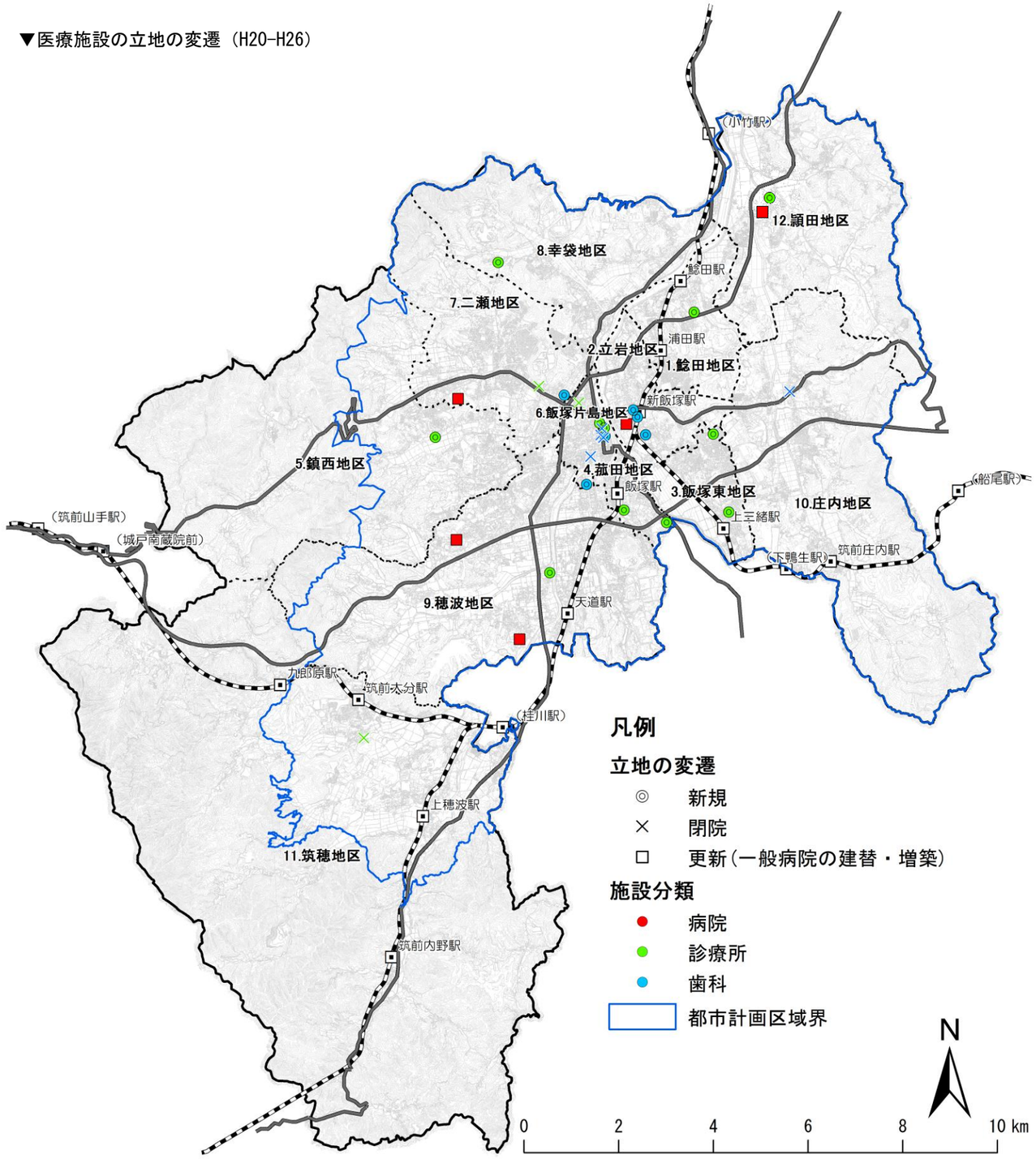
▼施設数の変遷

施設数	H12	H27	H12−H27 開業数	H12−H27 閉店数
スーパーマーケット	48	25	9	32
ドラッグストア（1,000 ㎡以上）	0	6	6	0
日用品店（1,000 ㎡以上）	1	2	1	0
買回品店（1,000 ㎡以上）	15	21	11	5

資料：【商業施設】大型小売店要覧、日本スーパー名鑑、ｉタウンページ

○平成 20 年以降の医療施設の立地の変遷を見ると、一般診療所において開業数が閉院数の３倍以上多くなっている。
○病院の立地状況に変化はないが、近年、病棟の建替や増築など施設の更新が図られている。

▼医療施設の立地の変遷（H20-H26）



資料：【医療施設】健康・スポーツ課提供資料を加工

▼施設数の変遷

施設数	H20	H26	H20−H26 開業数	H20−H26 閉院数
病院	13	13	0	0
一般診療所	128	136	11	3
歯科	78	79	6	5

▼一般病院（内科・小児科）の更新状況

病院名	建替病棟	年度	救急医療体制
飯塚嘉穂病院	新病棟	平成 23 年度	第二次
頴田病院	新棟	平成 24 年度	―
総合せき損センター	新病棟	平成 24 年度	第二次
飯塚病院	新病棟	平成 24 年度	第三次
飯塚市立病院	本館	平成 25 年度	第二次